



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I  
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: [info@chigasakieigo.com](mailto:info@chigasakieigo.com)

## はじめに

今年も残りあとわずか、早いもので2000年問題からあつという間に丸6年が経とうとしています。月日の経つのが益々速くなったように感じるこの頃です。今回も各地で活躍されている協力校の方からのお便りをご紹介します。

### ☒ サンディエゴだより その2 ☒ カリフォルニア州 サンディエゴ校代表 三浦邦昭

今年1月に茅ヶ崎方式サンディエゴ校を始めて8ヶ月がたちました。この間、クラス1受講者の進捗具合を見てきたのですが、ヒアリング能力の向上は目を見張るものがあります。key words、LCTが最初はほとんど聞き取れなかった人が3ヶ月程でゆとりが出来、半年後にはkey wordsはほぼ完璧、LCTもポイントがきちんとつかめるようになりました。茅ヶ崎方式を教えていて何よりもうれしいのは、皆が楽しいと言ってくれることです。これは、話題の豊富さ、充実した内容がうまく融合し、毎回のレッスンが魅力的になっているためです。どんな勉強でも楽しみながら進めるとするのが最高だと思います。

「サンディエゴだよりその1」でご紹介した韓国のご婦人も、大変忙しいスケジュールの中がんばってくれています。最近ご本人からの希望で講義をすべて英語ですることになり、日本語の資料が多い中うまくできるかなと思いましたが、やってみると結構楽しく一味違ったクラスになっています。また、この10月から新たにクラス2を始めます。これまでクラス1を勉強してきた人の中で、中級に進みたいとの希望が出てきたからです。私自身もクラス2の講義を大変楽しみにしています。

ここ2週間、米国では、ハリケーン Katrina のニュースがテレビ、新聞を埋め尽くしています。New Orleans は私にとっても思い出の多い町で、この町の多くが水没してしまったのは大変ショックでした。Katrina は現在米国が抱える問題点を表面化させた点で、意味があったのかもしれない。初めは天災、その後は人災と言われているように、これまでの米国では考えられないほど救助活動が遅れました。

従来は FEMA(Federal Emergency Management Agency)が独立した組織で即災害救助に出動できたのですが、9/11 事件以降 Homeland Security の管轄下に置かれ、いわゆる red tape の影響をまともに受けたと言われています。また州兵の多くがイラク戦争に駆り出され、町の治安維持にも問題が生じました。被害者のほとんどが minority であったことも、今回の災害の特徴です。ブッシュ大統領も重い腰を上げて、何が問題であったか調査に乗り出すとのこと。

サンディエゴも州立大学の体育館を shelter として提供し、最初の Katrina 避難民 600 名の受け入れ準備を行っています。避難生活をしている人々が、一時も早く自分の町に戻ることができるように心から祈りたいと思います。(2005年9月)

## ☒ 創立3周年を記念して ☒

鳴門校代表 多田久子

3周年記念のイベントとして9月25日に、文理大学の Dr.Christian Paetz 氏を招いて英語での無料講演会、「戦後60年ドイツの歩み ～英語で聴く、学ぶ、話す、激動のドイツ60年～」を開催しました。会場の公民館は50人も入れれば満員になるような小さな部屋でしたが、それでも、お客様が少なかったらどうしようとドキドキしました。幸い当日は一般の方も多く、満席でほっとしましたが、それも束の間、今度はその責任の重さに緊張が走りました。

教室を始めた当初から、英語がコミュニケーションの手段である以上、教室で学ぶだけでなく実践の場を持ちたいと思ってまいりました。それで今回の講演では、Dr. Paetz のお話を C2、C3 クラスの3名に逐次通訳をして頂くことにしました。が、Dr. Paetz が超多忙なため、事前の打ち合わせが殆どできていない状態で当日を迎えることとなりました。続々と会場入りするお客様。膨大な資料を確認する間も余りなく、講演は始まりましたが、結果は、と言うとすばらしい通訳をして頂いたと思います。旧東ドイツ出身の Dr. Paetz の話す、非常に複雑で、波乱に満ちたドイツの歴史は、その領土の変遷、第2次世界大戦におけるヨーロッパ、アジア、アメリカの被害の比較と戦後復興への影響、又、聖母教会の修復という最新の話まで幅広かったにもかかわらず、C3 の会員さんを中心にお客様を感動させる通訳でした。英語を学ぶ楽しさをご参加頂いた皆様にわかっていただけたように思います。

初めての試みでたくさん反省すべきところがありますが、皆様のご協力で何とか無事終えることができました。本当にありがとうございました。今後もこのような機会をどんどん作っていきたくと思っています。

## ☒ 『ボランティアって何?』 ☒

豊田校代表 畑 裕子

**volunteer** <VOLUNTAS (ラテン語) = will 『自由意志で決意すること』>

someone who does something without being paid, or who is willing to offer to help someone.  
(ロングマン 現代アメリカ英語辞典)

2005年愛知国際博覧会でボランティア活動をさせていただく機会を得ました。ただ今回はボランティアのボタンの掛け違いをしてしまったようです。愛・地球博の通訳ボランティアは、Chigasakimates 第32号に原田さんと倉上さんが寄稿されたように、ほとんど英語という特技を生かすチャンスがありませんでした。私は活動初日に北ゲートで4時間近く立ったままパンフレット配りをしながら、中国人カップルに車椅子の使い方を英語で説明したり、外国人に英語版迷子ワッペンの説明をしたりしました。しかし、2回目以降はベビーカーの手配をしたり、案内所の外で日本人からの質問に答えたりするだけでした。愛・地球博のボランティアは別名「おもてなしボランティア」といい、博覧会事業および来場者を支援することが第一義です。各自、特技を生かして、自身が充実感や達成感を感じられるよう、さまざまなボランティアが採用されましたが、終わってみると通訳ボランティアの活躍の場はありませんでした。来場者は大半日本人でした。(有償の)通訳担当のアテンダントだけで十分でした。不備な点がありましたが、今がボランティア元年、多くの方がボランティアを体験いろいろ考える良い機会になったと思います。

お知らせ

協力校の会員である小林伸治氏が「英検1級合格！私の方法」という本を出版しました。

茅ヶ崎方式で勉強したことが役立つとのコメントもあります。(明日香出版1365円)

## 《さいたま浦和校》

代表 桑原 美雪

池袋から電車で20分、文教の街、浦和の駅前にさいたま浦和校があります。以前、現池袋校の大田先生が浦和校を開いていましたが、池袋へ教室を移転させた後を受けて、2001年に新たに当校を開設しました。旧6名の会員さんを中心に、初めはC1、C2の2クラスからスタートし、現在はC1、C2、C3の3レベルの6クラスを設けています。会員さんは20名弱で、大学生から熟年層までと幅広い年齢層の人がいます。主婦、会社員、高校の英語教師、自宅で教室を開いている人、市の国際交流グループで活躍している人など、様々な人たちが集まっています。将来留学したい、英語の資格を取得したい、もう一度英語の勉強をやり直したいなど、それぞれが目的を持って、和やかな雰囲気の中にも真剣に勉強をしています。

学習会はず、クイックレスポンスでワードテスト、その際、関連語などを示して、語彙力のアップをはかります。クロスワードテスト、暗記してきた例文の発表、ニュースの聞き取りと内容の確認、という流れで進みます。毎回予習をしてくるのは大変ですが、これをこなしていくうちに、英語のニュースが聴き取れるようになってきたと実感する人が多いようです。さらに世界のニュースに関心が出てきて、世界が広がったという嬉しい声もあります。学習会後は、ニュースのトピックについて話が盛り上がりたり、英語の情報交換の場になったりしています。

今後は、茅ヶ崎方式の教材を中心に進めながらも、TOEICの勉強をしたいとか、勉強したことを使って話す場があったらいいのに、という会員さんのご要望に対応できるように努め、浦和校の特色を出していけたらいいなと思っています。

## 📞 学習者の声 📞

さいたま浦和校 C3会員 板橋 眞理

それはもう20年近くも前のことです。その婦人を「美しい！」と、思ったのは。

東京でシンポジウムが開かれていて、私は受付係として手伝いをしていました。英語を教えるプロばかりが集まる恒例のイベントです。各ブースでは、新しい教材のプロモーションや教授法の紹介など、多岐に渡る催し物が開催されていました。ネイティブを交えてのディベートなどもあり、会場は熱気を帯びていたのです。その中で、その婦人は、彼女なりのリズムを刻んで（決して早口でない）、論理的で無駄のない英語を話していた。しかも実感のこもった言葉だったのです。

年齢と同じ数だけ刻まれた皺や丹念にとかされた白髪の髪（もう70歳近かったと思う）、その横顔を「美しい！」と、心臓の高鳴りと共に覚えた、「美とは知性なり」と、確信した瞬間でもあります。

こんな知的な老婦人になりたいなあ〜。若い者を相手に淀みない英語で対抗できる技量を持ち合わせた「おばあちゃん」に！

あれから10余年、さしたる英語力もなく、進歩もないまま、あ〜、どうしよう…、と思っていた矢先に出会ったのが「茅ヶ崎方式」でした。日本語で新聞すら読まなかった私が大変身を遂げたのは「茅ヶ崎方式」のお陰です。同じ内容でももう一度英語で聞く（読む）とより深く理解できるし、なによりありがたいのが「単語」が豊富に身に付くこと。単語テスト(?)の際の緊張感、また、先生が具体例を挙げてくれたり、関連語などをテンポ良く聞いてくれたり、教えて下さるのも嬉しい！単語の具体的なイメージがととも掴みやすいのです。一週間はあっという間に過ぎ、予習、復習に追われる日々ですが充実しています。

なんといっても知的なおばあちゃんになる！という夢があるので、今から日々精進しておかないと、ね。

Chigasakimates には3回目の登場になります。オリンピックに3回選ばれたときのブレア首相のように「punch the air」したい気持ちです。3回目になるのでいったい何を書けばいいのかと思案していたのですが、正直に私が学校運営にあたる時の気持ちを簡潔に述べたいと思います。私が1997年の開校以来、大事にしている気持ちを表すと次の3つの「F」に当てはまると思います。

### 1. FUN

当校に通ってらっしゃる方は、8割以上社会人です。よってお仕事や家庭をもっていらっしゃる方がほとんどです。その方達がお忙しい時間の中、どうか時間をやりくりして通っていらっしゃる訳です。その方達が、毎回、来て良かったと感じていただくのはとても大切なことだと思います。そのために「こういう表現もあったのか」とか「こういう単語の使い方もあったのか」なんていう「発見できた楽しさ」を提供できたかどうか当校の存在理由だと思っております。そういう意味では茅ヶ崎方式は最適だと思います。

### 2. FRIENDLY

勉強というのは三日坊主になりやすいものです。当初、熱意を持って始めたことでも少し時間が経つとめんどくさくなったりするのが人の常だと思います。その時に「あの学校に行けば（クラスメートの）～さんに会える。」または「あそこに行けば常に誰かワクワクした人と友達になれる」なんていう要素があると継続的に勉強ができる素地ができるのではないのでしょうか。私はそう信じています。ですので当校では積極的にクラス中、もしくはロビーにて生徒さん同士が気軽に会話できる環境づくりに気を配っているつもりです。その結果、当校で知り合った生徒さん同士が旅行に一緒に行ったりとか、一緒に飲みに行ったなんて言うニュースを聞くとうれしいです。

### 3. FEEL FREE

英語の媒体というのはニュースだけではなく書籍、音楽それに映画など多岐に渡ります。そういう媒体に気軽に触れてほしいという願望を込めて当校では毎月のイベントを無料で行なっています。例えば映画クラス「ムービーナイト」では茅ヶ崎でのテクニックを応用し、セリフを聞き取っていただきます。字幕に出てこない英語のおもしろさが受けてとても人気のあるクラスです。「TOEICクリニック」では当月のTOEICを受ける方達の直前対策を行ないます。

## 🎧 学習者の声 🎧

## 新潟校 C2会員 藤沢 勝

65歳の手習いで「speak up」(新潟校)の門を叩いたのが今年2月、若い人たちの向学心に揉まれて少しはブラッシュ・アップをと考えていた(火)クラスは、50代、60代と思われる昔お嬢様たちがメインのクラスで、そこにうら若い現役のお嬢様がたも混じって和気あいあい。お聞きするところによると、茅ヶ崎クラスはここ数年受講生がうなぎ上りに増えているとか…。毎回タイムリーなトピックを取り上げて、どうしてもわからない部分はそれぞれが理解した単語を出し合ってまるでクイズを解くように全文を推理、時が経つのも忘れて授業に集中できるのも茅ヶ崎の大きな魅力ですが、同時に巧みな授業捌きで私達をそのトピックの世界に引き入れてくださる渡辺先生の卓越した指導力に因るところがとても大きいと思います。

「speak up」では、茅ヶ崎でヒアリング力を増しながらコミュニケーション・クラスでさらに会話力を鍛えておられる方も多くおられます。悪戦苦闘の連続ですが、半年余りのご指導を頂いて、我が英語力も少しはレベル・アップできたかなと自賛しています。

あとがき：それぞれの協力校でいろいろな工夫をされているようですね。各校の特色を伝え合うのも良い刺激になると思います。あなたの協力校もぜひご紹介ください。皆様からのお便りをお待ちしております。